



三輪曲出ア種
位開
立

謂

毛ハ和列ニシレ山ノヨリ海

カモリモ人モ人トモモカノ今カ

楓トシハヒノシクモシカク女一

人毎目モモモモモモモモモモ

モモモモモモモモモモモモモモ

三輪

おのれをばつとてしるすは
まはるるをばつとてしるすは

女

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

あはれをばつとてしるすは
あはれをばつとてしるすは

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

わさねのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (Shodō). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The ink is black, and there are several red annotations interspersed throughout the writing. The paper shows signs of age and wear, with some staining and discoloration.

紅
名
の
世
の
世
の
世

甲
の
世

紅
の
世

紅
の
世

紅
の
世

紅
の
世

紅
の
世

紅
の
世

紅
の
世

三
十
三

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on aged paper. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The ink is dark, and the paper shows signs of wear, including some staining and discoloration. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. There are some red markings, possibly ink splatters or corrections, scattered throughout the text. The overall appearance is that of an old manuscript or a page from a historical document.

ききかへるや 祿のじり 酒流
かみけつる 祿生みぬ ぞとぞ ぞん
うしとぞ ぞん ぞん ぞん ぞん
世に ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
中し ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
まひ ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
かき ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
つら ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
くま ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
は ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
かき ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
まひ ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん
うし ぞん ぞん ぞん ぞん ぞん

一...
二...
三...
四...
五...
六...
七...
八...
九...
十...
十一...
十二...
十三...
十四...
十五...
十六...
十七...
十八...
十九...
二十...
二十一...
二十二...
二十三...
二十四...
二十五...
二十六...
二十七...
二十八...
二十九...
三十...
三十一...
三十二...
三十三...
三十四...
三十五...
三十六...
三十七...
三十八...
三十九...
四十...
四十一...
四十二...
四十三...
四十四...
四十五...
四十六...
四十七...
四十八...
四十九...
五十...

論

三十一

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

あはれし
あはれし
あはれし
あはれし

ツラ

三十一

三十一

あはれなる御心

西のあはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200

人々... 命

く... 命

ま... 命

あ... 命

ま... 命

あ... 命

あ... 命

あ... 命

あ... 命

あ... 命

あ... 命

あ... 命

命

まらぬ海とてさかたをえ
神風ふちるるまらぬ
あはれ

てふか一長乃宿とほく
てふあひたのまほは宿のへん

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

鳥居

いよ上巻らん七そ二ら一は二か一ら二き一を二き一り二と一

の二む一の二り一の二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

よ二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

て二あ一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

よ二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

く二あ一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

て二あ一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

ゆ二か一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

都三ふ二ら一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

夕二月一の二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

よ二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

よ二り一の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二の二さ一を二き一り二

鳥居

一乃昔の心せんはくかかた
行よ皆の船よ丸の心く海よ心入
我と舟との心せんはくかかた
らあよ心せんはくかかた
何人よ心せんはくかかた
心せんはくかかた



書

のさうはまをうらむるは

はなはたのこころをいふ

よふかきことばをいふ

ていふことばをいふ

うらむることばをいふ

いふことばをいふ

うらむことばをいふ

いふことばをいふ

うらむことばをいふ

いふことばをいふ

うらむことばをいふ

いふことばをいふ

にわたりて すすみし ころんり

あざきくたけ 野にこえり

みくもたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

みくもたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

みくもたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

みくもたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

みくもたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

あざきくたけ 野にこえり

まふまのあひくまふまふまふまふ

まに身はたのびよさららあひを

かづ物流らんらん同とく

あり今まひまあは花のあふ

ふりかり我あまひてまひまふまふ

ふれあまひ花とあふまふまふ

朝陽梅

世は一程
位 兩 五

才一

年たららんかあまふまふ花

のまふまふあまふまふ

まふあまふまふあまふまふ

那とあまふまふあまふまふ

らあまふまふあまふまふ

出

早梅 早梅 梅は江の川

うまひのさの梅をひひる

あふあふささささささ

ささささささ サ 中

ささささささささささ

ささささささ 上 さささ

ささささ サ 梅は古

さささ サ さささ

さささ サ さささ

さささ サ さささ

さささ サ さささ

さささ サ さささ

さ

さ

秋

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

あはれなる心にて

一五〇

一七〇

375

おき^二海子^一 祈^二ん^一て^二われ^一の^二風^一の^二吹^一の^二吹^一の^二吹^一

と^二り^一て^二あ^一ら^二く^一も^二い^一の^二い^一の^二い^一

ら^二と^一ふ^二ら^一の^二ほ^一の^二ほ^一の^二ほ^一

れ^二と^一ら^二ら^一ら^二ら^一ら^二ら^一ら^二ら^一ら^二ら^一ら

と^二と^一と^二と^一と^二と^一と^二と^一と^二と^一と

か^二の^一あ^二ら^一の^二あ^一の^二あ^一の^二あ^一の^二あ^一

を^二見^一る^二わ^一ら^二の^一わ^二ら^一の^二わ^一ら^二の^一わ^二ら^一

を^二も^一も^二も^一も^二も^一も^二も^一も^二も^一も

て^二若^一と^二り^一た^二も^一の^二も^一の^二も^一の^二も^一

お^二の^一我^二た^一ら^二の^一ら^二の^一ら^二の^一ら

も^二と^一も^二と^一も^二と^一も^二と^一も^二と^一も

い^二の^一海^二子^一人^二の^一い^二の^一い^二の^一い^二の^一

376

い^二の^一海^二子^一人^二の^一い^二の^一い^二の^一い^二の^一

下

古今...
夫今...
...
...
...
...
...
...
...
...

三井寺
世田上六三

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

あはれにせむくはるるにせむくはるる

てなとあまやとねのまたり
たさいきよららのひんく
たふとくまらもあまな
らまのひらひら
しりすしゆま
あまのまのま
さしがらめし
ふひらのま
あまのま
らまのま

てはあはれもなす

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

はなはたしくいふことなきや

しるしをきりて
ふしむるは
なほ

古紙
11

あはれなき
まじり

とて
しるしを
きり

^白あはれなき
まじり

とて
しるしを
きり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

あはれなき
まじり

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, spanning across the two pages of the manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is highly stylized and fluid, with many loops and flourishes. There are several small red markings or dots scattered throughout the text, possibly indicating specific characters or words. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the pages. The right page shows some signs of wear and discoloration, particularly near the binding edge.

三

二

かゝるつゝぬ 又もつられやなま
かゝる 雨れららふか 一
あゝふとこの人ほのやれ
飾くまゝをそとにこれのれ種
おふといひて林の事おぐめらるるも
あゝれららるる
名しらら物ほのれとらつ
わちのれいゑがらん
夕ぐさまゝくみまらつらあひのふ
花そららるるまふゆめさなまゆめ
のまゝいふわらんかあひい
しやあおしびまぬくのそとを

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Handwritten text on the left page, likely a list or entry.

Small handwritten mark or signature at the bottom of the left page.

Small handwritten mark or signature at the top of the right page.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Handwritten text on the right page, likely a list or entry.

Small handwritten mark or signature at the bottom of the right page.

其
あふがく清くはるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

あふるるのあふるるのあふるる

いづれいづれにまはるるはるるのん
 今にまはるるはるるのん
 中
 まはるるはるるのん
 中
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん

まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん
 まはるるはるるのん

三井

上吉キ地

三井 十段
いふわがよかむるまゝに
あつた
たふらふ
これ
いふわがよかむるまゝに
あつた
たふらふ
これ
いふわがよかむるまゝに
あつた
たふらふ
これ

放家傳

四景 一
いづれよ者下はひの園は垣人
まよひのさくも人垣しり子は
あつた
いづれよ者下はひの園は垣人
まよひのさくも人垣しり子は
あつた
いづれよ者下はひの園は垣人
まよひのさくも人垣しり子は
あつた
いづれよ者下はひの園は垣人
まよひのさくも人垣しり子は
あつた

う歌ふくは箱のうらむやうなむか

きまもくせの幾くはうらむくもなるあま

よらひあくは日也くくくらのあま見ふ

くみ著はくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

おらりの教はたふさしむは立今
 おはをむにくとわわの事
 だらも家の人とてねと金
 いらんか、はまをいん
 大親のいんどういんか
 中よ、ぬいぬいぬい
 よしあしは事なる中よ
西語
 ともあつらうちか人毎とあ
 いらぬが、いんか、合して
 くらまこの海ふあしくは
 くらよわうえのまのまか
 よらういあふなるのまか

た

た

一とひはくつる夫を判りにて
 しかのびまじりていふは
 たらよらぬさうしんかありき
 考れぬかえたりとていふに
 夫のさうとすにいふは
 一とひはくつる夫を判りにて

一とひはくつる夫を判りにて

一とひはくつる夫を判りにて
 然るに 梅の者よ、何ぞとて
 ついでにいふは、夫を判りにて
 一とひはくつる夫を判りにて
 一とひはくつる夫を判りにて
 一とひはくつる夫を判りにて

律法よとてたてり申すは律法
と云ふはまじき事なり

此に因りて申すは律法

をいふは律法をいふは
律法の御心なり

律法の御心なりと云ふは
律法の御心なり

律法の御心なりと云ふは
律法の御心なり

律法の御心なりと云ふは
律法の御心なり

律法の御心なりと云ふは
律法の御心なり

須くぞののさしとて若くは我

此らおつらひ身自んあまの程に

乃三鴻くあくあどねいづりに

あまのこ子細のまつら世一人

行り流乃我らあまの徳を

二約乃道としらあまの徳を

ぬくは振舞とくくまの徳を

つまの安の身とあまの徳を

の海よりんあまの徳を

美くあつこと白雲青の徳を

あまの徳を

くくくくくくくくくくく

叔家

音

わーるん 風々海乃酒ヅクが又
 わーるん 着そゝがの 家乃村何
 界乃に ち川の ぬれ
 走るん 今とわらうやうん
 清 へ面とらうの ぼるん

音

いけん 十のりたせんと
 へん ぶん ちの 長と
 ちん せん ちの け
 ちん せん ちの け
 へん ぶん ちの け
 へん ぶん ちの け
 へん ぶん ちの け
 へん ぶん ちの け

叔家

五言一十

月清風月性乃...
な...
な...
な...

月清風月性乃...
月清風月性乃...
月清風月性乃...

法と...
法と...
法と...
法と...

白今一人...
白今一人...
白今一人...

と色お傍...
と色お傍...
と色お傍...

うと...
うと...
うと...

うと...
うと...
うと...

あわ...
あわ...
あわ...

くわんげんしん海人の夫とつまの

あまのいんさつ庫あたる

しし我ととも抱く

わいふからぬ夫にくわの時あ

くくはあつとむしり

かた小續あつとむしり

かのあひとく ねんころ傍

いのきつそー口海と暗炊

そあまの宗詰の承度

の宗詰と戸にさしを海に

ししとくさくさく

とくさくさく

抄

上卷

とまはるゝ宗神とまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

早早初うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

うらむらひの心風力ゆくまはるゝ宗神

切とさんさんかかへんげん海か

ひくふなるおぼやひるまきしとあつ

かあ何とて申しよ

かあのかいしつへいふおあき

三浦もくろく人れおや

たかあさひの増あく

あ之三語へはまきあう金さかい

くわろそふみののわんや

てあふむらにくひんか

きびてさうや

かのあんまきさかちん

とあふむらにくひんか

ふのさへはかたやう佛とらふまへに

ひらひらとよるまへに色發んぬる

わらう柳のまぎら花はくせなき

あつたまはくせなきあつたから

唐うらまはれわらうまはるまへ

かたはひはくせなきあつたから

くせなきあつたからくせなきあ

きらきらとあつたからくせなきあ

あつたからくせなきあつたから

あつたからくせなきあつたから

あつたからくせなきあつたから

あつたからくせなきあつたから

浦のたしむるはりみ
 うまのしむるはりみ
 糸のわくしむるはりみ
 わさのしむるはりみ
 かたのしむるはりみ
 浦のたしむるはりみ
 うまのしむるはりみ
 糸のわくしむるはりみ
 わさのしむるはりみ
 かたのしむるはりみ

浦のたしむるはりみ
 うまのしむるはりみ
 糸のわくしむるはりみ
 わさのしむるはりみ
 かたのしむるはりみ
 浦のたしむるはりみ
 うまのしむるはりみ
 糸のわくしむるはりみ
 わさのしむるはりみ
 かたのしむるはりみ

水

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten characters or a small signature at the bottom left of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page, consisting of approximately 10 lines of text.

水

一二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

此本者觀世左近守文
以鼻句嶋之并加當流
秘密悉令改正者也

千持貞享三^{丙寅}年孟春吉日
寺田通二傳上州

寺田平次新刊

